

いろいろからの試験就労先のマルサ花卉農園の澤村友秀氏の投稿文を同封します。(坂本勲)

## おんちゃんの美意識について

年取ってからか、どうにも美しいなんて言葉が口から出るようになってしまった。20代じゃあ考えられない、美なんて笑い飛ばして、楽しい事最優先してたからなあ。ここでは美意識について少し考えてみる事にする。一般論なんて一切無視した個人の感想なので全く私以外の人には役に立たないと思うけど、もしかすると誰かに刺さるかもしれない。刺さらないほうがいい気がする。どっちでもいいか。

## 美意識作動原理

どうやったら美しいと感じる状態になるのかという事。単純に美しいものに出会えば美意識が作動するんだろうけどそうそう1日なんども美しいなんて感じる事はない。もしかすると数週間から数年間感じたことないなんてありうる。ただ比較的感じやすい状態になることがある。それは、これまでの日常がよかったなあと思えたり、将来を悲観したり、現状に不満足状態であったり、気分がふさぎ込んだり、単純に鬱っぽい時ほど作動準備は出来上がる。もっと正確に言うと鬱っぽい状態から抜け出そうともがいている時ほど準備完了なんです。ふさぎこんでいる時はまわりの世界なんて鮮やかさを失い、五感すべてが鈍くなる。味は美味しさを感じにくくなり、自分の体もどこか他人の物ように思え、見るものすべてねずみ色してたり、音なんか自己嫌悪の騒音で聞こえにくい。鼻はアレルギーがあるから最初から鈍いですが。さて、こっから回復する時には五感すべて豊かに鋭敏になっていくはずです。そうするとどうでしょうか、マズイものだらけだったのに「あれ今日のご飯おいしいぞ」となり、「ザラザラ、スベスベ、ムニムニ、暖かい」あらゆるものの質感が面白く感じられ、見渡す限り眩しいぐらいに鮮やかさを取り戻し、沈黙ののちに風音でも心地よくなってしまおうんです。鼻はあんま変らんですが。ちょうど暗闇で分らんかったのに夜明けとともにちよつとずつ分かるようになるじゃあないですか、この時分るようになる順番があるでしょう。部屋の中におつたらなにが見えてくるですかね、大好きだったアーティストのポスターだったり、小さなサボテンだったり、聞き覚えのある音楽なんてこともあるでしょうけど。それからその周り感じられるようになっていくはずで。つまり最初に感じられるモノが美だと思うのです。どうやらそれを自分で選んでいると思うのです。回復期かどうか分らない時でも何かしら強く感じられるモノあると思うのです。それが美ではないかと思えます。ということは一度感覚が鈍化状態になれば、そう

ではない状態に比べて美意識は作動しやすくなるはずですが、ただ、なかなか全感覚が鈍くなるのは難しいかもしれません。お酒なんかの薬物で鈍くなる事はあるでしょうが一過性すぎて美意識モードになりにくいと思います。中毒状態であればもしかすると可能かもしれませんがなかなか望んでそこには至らないでしょうね。芸能の世界では中毒状態で生み出された場らしい作品があるようなないような気がします。

鬱っぽい時に美意識が作動しやすいのですが、美を一度感じられれば鬱っぽくなくとも記憶から美意識を動かすことができるようになります。秋空見上げて、「うろこ雲が美しかった」と思い出せば同じようにうろこ雲に美しさを感じられます。同じように鬱状態でも聴けてた音楽を聴いたときも同じように美しさを感じられます。副産物として一緒に気分も落ち込むかもしれませんが、まあしょうがないですね。めんどくさけりや切り離せるように訓練しましょう。なかには思い出しても美しいと思えないものもありますがそれは美しくなかっただけだという事です。もう少し絶対感があるものがあるはずですが、そっちです美しいものは。やや強引です。そうです強度が強いのです美意識ってやつは。そうそう書き忘れてたので書いときます。どうやらイデオロギーや数学の定理公理なんかも美意識が作動するようです。学のない私には分らんのですが、信仰心なんかも美意識始まりかもしれません。落ち込んだ時には理由や意味なんかをくれる宗教も助けになったりしますので、暗闇に光がさすように感じられるのかもしれませんが。

ここでは 1.鬱状態で美意識は作動しやすい。2.一度美意識が作動した対象は思い出しても美意識が作動する。の2点が言えると思います。

## 美意識の対象

一体何に対して美しいと感じるのかという事。先にも少し触れたけど対象は、ほぼほぼなんでもありかと思えます。美術館にあるような絵画をみたらそう感じるなんて事もあるだろうし、お寺のお堂下で居を構えるアリジゴクの巣だつてよく見ると美しく見えたりする。人の考え方や歴史なんか也大いに感じるなんだろうなあ。ほんで人そのものにも感じることがある。美人なんて言葉があるのでそれはそうなんでしょう。ウチの妻は非常に美しい手足をしてて、肩から延びるラインはしだれ髪のように緩やかに下って肘辺りでやや膨らみを見せつつ手首に向かって真っすぐ伸び広げた手はさほど広がらず細やかな指がせせらぎの流れるがごとくそこにあります。足はさらに女性的なラインで、いやここまでにしときます。これは人体美のようなもんですね。内面的なもんだつたらゆるぎない芯の強さだつたり、優しさ、時に冷酷な決断力、なんかもありえます。献身的態度や自己犠牲な行動、ファーストペンギンなんかも美しく見えますねえ。だいた個人的事ばかりだけ

ど。ちょっと一般的なところ言うと「夕日」「夕焼け」とかの黄昏時の風景なら結構皆さんも感じられたりするのではないかな。あとは「花」とか季節の草花も写真家や絵描きさんが多く作品として残してるから美があるんだと思います。自然を美しく感じるのは大昔からそうだったんじゃないかなと思います。逆に人工物ではどうかというと、もちろん感じられると思います。私はクラシックカーのピカピカに磨かれたボディラインに引き付けられてしまいます。最新鋭の新車には感じられにくいので昔の人が考える美意識に私は合っているのかもしれませんが。今ほど簡単には車が作られなかった時代だからこそ車づくりにも熱意が込められていたのではないかなと思います。

とまあ、なんでも感じられるし人によって全然違う事もあるでしょう。つまり対象は全てであってそれぞれ違うです。ウンコは美しいか？と聴かれてもおそらく美しい巻きグソはきっと存在すると確信するのでウンコも美しいって事にしておきましょう。

## 美意識の効果

美意識が動いちゃったらどうなるのかって事。これも人それぞれかと思うので私の場合でいうと「強い魅了状態」と「じんわりしたリラックス」が起こります。視覚からきた美意識は「強い魅了」を引き起こし、聴覚からきた場合は「じんわりリラックス」であることが多いです。対象の所では音については書きませんでした。音楽や自然音なんかも対象になるでしょう。私は Nujabes というミュージシャンが好きなのですが彼の音楽を聴くとどんな精神状態でも大抵はリラックスできます。ハイテンションな時でも上手くいかなくて落ち込んでいる時でも同じようにリラックスをもたらします。ですのだからこれ10年以上聴いています。おそらくこれからもずっと聴いて行くでしょう。ここまで長く聴き続けている音楽は他にはないため、Nujabes 音楽の強度の強さたるや、やはり美意識が悪さをしていなければ不可能でしょう。ちなみに Nujabes の言葉を少し意識して書きますと「全身で感じた美しものを指先を通して送り出している」だそうです。やはり美意識です。

視覚由来で行くと夏の黄昏時は「強い魅了」が起きやすいですね。20代の頃ハウスで仕事をしていて昼間は熱いから5時ぐらいからハウスの屋根上で作業をしていました。夕暮れを感じながら作業をしていました。暗くなるまで作業して、日没とともに仕事をおいて帰るのですが、その時の時間の流れ方や情景があまりに不自然さがなくて思い返してもボヤっとスロウな感覚になります。当時はそんな事思いもせず半裸で「今日もお仕事頑張った俺様エライ」とか思っていたのですが、全身で夕暮れを感じていたのが効いたのが、時折当時を思い出し情景の一部になる感覚があります。その後、日焼けで皮がむけて痛かった

んですがね。

「強い魅了」ですが少々マズイ時もあります。友人がバイクで走っているときとてもキレイな女性を見つけたそうです。まあ、見てしまいますよね。自分がバイクを運転していると分っているのに意識が「強い魅了」状態により影響をうけて、前を見るより女性に見とれてしまうのです。そして自損事故を起こすのです。大事にはならなかったのですが、恥ずかしかったそうです。笑い話で済んでよかったところですが。男性では一度は経験があるのかもしれませんが。事故ではありませんよ、美女に見とれてしまうという経験です。

この「強い魅了状態」は他の判断や感覚、認識を遮ってしまうほど強力な集中状態なので注意が必要です。なかなか起こりえませんが、安全を確保した状態で諦めて魅了されてみましょう。とても良い経験になると思います。ウツトリと対象に美意識が動いちゃっている様子は他人から見たらほぼヤベエヤツになりますが、本人がこの世界で見つけたとても大切なことであり、完全な主観であり、センスそのものです。他人がどうこういうものではないのです。むしろ本人の世界が作られている要素が理解できるチャンスではないかと思えます。考えてみてください、個人の世界でしか感じられない事を本人が否定せずに受け入れ、他との比較を必要とせず、ただただウツトリしているさまを。そんな人が大勢いる社会を考えてみてください。とても変な人だらけになりそうです。いやあそんな社会を私はおもしろいと思うなあ。なので、ぜひぜひヤベエヤツになってみましょう。

そろそろ最後になります。最後は「美意識の評価」とでもしておきましょう。もちろん私からみた評価という事から始めます。というかそれ以上でもないかもしれません。

私からみた美意識はかなり絶対感のあるもので生きていくために必要なものだと思っています。自身の持つ空虚さや虚無感の中で私を確立する足場であり手がかりであり、そしてかがり火でもあるのです。美意識の効果でも説明した通り、自分自身を落ち着かせたり魅了されたりする時には多幸感がせり上がってくるように感じます。満ち足りているとでも言いましょうか。おそらく美意識には欲望が強く関わっているのだと思います。もしかすると欲望の上澄みのようなものかもしれません。素直に純粹に望むものという事です。私は欲望を満たすことで幸せを感じるようになると考えているので、そういう意味でも間違っていないと思います。私個人はこのように考えて、評価としておきましょう。

もし、私以外での美意識の評価はどうか少し考えてみます。聞いてみたわけでも、調べたわけでもないのが想像ですが。

私はデザインの専門学校を卒業しています。その学校の修学旅行でイギリスに行きまし

た。現地では様々な美術館を回ることができました、その中の一つで現代美術を扱う展示がありました。映像作品でした、2つの画面を並べて表示していて1つにはお産の現場を流して、もう一つは機械につながれ虚ろな表情の老人がベットに横たわり続ける映像でした。2つの映像が同時に流れています。生まれ行く命と終わりゆく命を扱った映像作品です。どちらも修正なしのリアルな映像でした、さすがはイギリスでしょうか。映像の最後は赤ちゃんが生まれて同時に2つ映像ともフェードアウトしていきます。そしてまた最初から繰り返し繰り返し再生されていました。生まれ行く命は美しさを感じさせます。多くの方はそう感じると思います。では死に行く命はどうでしょうか。恐怖を感じはしないでしょうか。作家は2つの映像を同時に流す事で対比から美意識を強調して作動させたかったのか。いくつもの生まれ行く命の映像だけでも美しくはなかっただろうか。そんな事を考えていましたが、どうも死にゆく命にも美意識は動いているのではないかと思えてきました。「板垣死すとも自由は死せず」と言って生き残った方もいましたが、そこで死んでいけば美しくはなかっただろうかと。自爆していく人の万感の思いを乗せて果てるさまには美しさはないのだろうか。大けがをしても必死に生き残ろうとしている命は美しくないだろうか、もし絶えてしまったとしてその瞬間に美しさはなくなるのだろうか。美意識の対象でも述べましたが「なんでもあり」なのです。だいが美意識だけに美化して書いてきましたので最後には裏側も少し書きました。なんせ破壊美なんてものもあると思いますので。

おそらく美意識は倫理面や道德面から外れたり突き出ていたりするところがあるようです。美意識からの行動には気を付けなければ、社会性を失いかねない事もあると思います。まあ、それもバイク事故の件で理解できるかと思いますが。

多くの社会に美術芸術があるので「美」自体に一般性はあるかと思えます。芸術家たちの多くの作品がそれを証明しているでしょう。しかし、個人個人の内面ではそれより深く広く「美」があると思います。個人的にはそのような個人個人の「美」を表現するのが当然の社会が望ましく思っています。社会性と反社会性の境界の表現は、もしかしたら社会を後退から前進に変えていけるんじゃないかと思えてきます。期待しすぎでしょうか。おんちゃんの美意識ですからあてにはなりません。

最後に、いただいたメールに美しさを感じてしまった一文を紹介して終わりにしましょう。「人に会わなくてもダメ、会いすぎてもダメ」このメールをもらった時は私にとって真理に近い洞察をもらった気がしました。バランス大事ですからねえ。バランス崩しやすい私にとってはちゃんと覚えておかないといけないなと思えたメールでした。フラフラ飲み生きよったらいかんぜよって事ですかねえ。でも、やめらんねええ。ヒャハー！

はい、おしまい。